

○5 番（井藤茂信君）

5番、井藤です。本日は2点質問させていただきます。

1点目、土庄町内にある歴史資料の活用についてお伺いいたします。

土庄町には、さまざまな文化財や歴史資料があります。

小豆島には、八幡神社5社があり、10月には秋祭りが各地で開催され、大いに盛り上がると思いますが、その起源は、西暦926年京都石清水八幡宮からの勧請に遡ります。

本年は1100年の節目に当たり、主催人である応神天皇、そしてその母、神功皇后にまつわる伝承が地域に残されていることは、町の歴史文化を語る上で極めて重要であります。伝承によれば神功皇后は、九州から難波へ戻る途中、瀬戸内海で嵐に遭遇し、小豆島北西の蕪崎に上陸し、海を静めるために神楽を舞ったとされます。この故事に由来し、当地は神楽崎、後に蕪崎と呼ばれるようになったものといわれております。

さらに、江戸時代には漁師が漁に来て、古墳を発見するとともに鏡を発見したが、また埋め戻し、石標を奉ったとのことです。昭和40年に教育委員会により調査が行われ、鏡を発見しました。この鏡は「蕪崎神鏡塚出土鏡」と呼ばれ、現在は教育委員会に保管されています。特定年代は行われていませんが、もし4世紀前後に遡ることが判明すれば、神功皇后伝承との関連性をより高める重要な考古資料となる可能性があります。

このような歴史資料や伝説は、町民が自ら歴史文化を再認識し、誇りを育むための大切な財産です。しかしながら、土庄町には、ほかにも多くの文化財が存在するものの、それらを広く紹介する機会は限られています。教育や観光と結びつけて、積極的に活用することで、まちの魅力を発信につながると考えます。

そこでお伺いします。

1つ目、蕪崎神鏡塚出土鏡について年代測定の調査を実施する考えはあるのか。

2点目、出土鏡をはじめ、神功皇后、応神天皇の伝承などを町民の皆さんに紹介する展示会を開催することについて、町の考えを伺いたい。

3つ目、町内に存在する多くの文化財を教育や観光資源として積極的に活用していくために、今後どのように取り組まれるのか、お願いします。

○議長（濱野良一君）

生涯学習課長 岡本高志君。

○生涯学習課長（岡本高志君）

井藤議員のご質問にお答えいたします。

まず、1点目の年代測定についてお答えをいたします。

本鏡については、発掘調査において箱式石棺が検出された事実や、全国及び県内における類似事例の出土傾向を踏まえることで、古墳時代前期に由来する可能性が高いと考えられております。このような考古学的な推定によって、鏡の時代背景や位置づけについて一定の学術的見解が得られているため、現時点では具体的な年代測定までは考えておりません。

次に、2点目の展示会の開催についてお答えをいたします。

文化財は、私たちの歴史や文化を伝える地域の宝物であり、誇りであるといえます。こうした文化財をじかに見学したり、その文化財にまつわる伝承などを知ることは、私たちの住む地域のことを知り、愛着を持ち、歴史や地域へ興味・関心を高めるなど、さまざまな効果が期待できることであると思います。出土鏡をはじめとする文化財の展示会の開催につきましては、その保存との兼ね合いに留意しながら、具体的な展示方法や内容について考えていく必要がありますので、文化財保護審議会や所有者、関係機関と十分に協議を重ねながら、どのような展示会の開催が可能であるか、検討してまいりたいと考えております。

続いて、3点目の今後の取り組みについてお答えいたします。

文化財は、後世に残していくために適切に保存していく必要がありますが、一方で、保存するだけでなく、さまざまな分野で活用していくことも求められております。

ただ、観光資源としてとなりますと、全国に比較的多く存在する一般的な文化財にはハードルが高いことも事実でございます。

したがいまして、まずは、学校におけるふるさと教育や、社会教育としての学びの場などにおいて、まだ、あまり知られていない小豆島の文化財の紹介や、地元の歴史や文化に関する講座の開催などを行い、地元の子どもや住民の方々に身近な文化財に興味を持っていただき、その価値や面白さに気付いてもらえるような取り組みを、積極的に行ってまいりたいと考えております。

○議長（濱野良一君）

井藤茂信君。

○5番（井藤茂信君）

文化財の取り扱いについては、大変難しい部分もあるかと思われます。

文化財にまつわる伝承を掘り起こし、わかりやすく伝えていくことは、地域の魅力を高める大きな力になると考えます。住民にとって、自らの町への理解や愛着を深める機会となり、外から訪れる方にとって、地域の歴史や文化に触れる貴重な体験となります。観光資源としても大きな可能性を持つことから、ぜひ積極的に取り組みを進めていきたいと思います。よろしくお願いします。

次、2点目の質問に移らせていただきます。

岡野町長は、令和4年1月に就任されて以来、3年8ヶ月が経過し、1期4年

間の任期も残すところ 4 カ月となりました。

そこでお尋ねいたします。この約 4 年間の町政運営を振り返り、町長として直面された課題や、取り組まれた施策、その成果や課題、また反省点について、どのように総括しておられるかお聞かせください。お願ひします。

○議長（濱野良一君）

岡野町長。

○町長（岡野能之君）

井藤議員のご質問にお答えします。

私が町長に就任した令和 4 年 1 月は、まだコロナ禍の真っ只中にあり、大きく傷ついた土庄町の暮らしや経済を立て直していくことが急務でありました。そうした矢先、2 月には官製談合事件が勃発し、行政の透明化を図ることも、私が成すべきことありました。

私が生まれ育ち、愛する土庄町は、実に多くの課題を抱えています。人口減少、担い手不足、経済の停滞、生活基盤の維持・整備など、数えるときりがありませんが、私は、人口減少を少しでもくい止めながら、同時に、人口減少下にあっても住民の生活や福祉を守り、豊かで住みやすい地域を持続可能的に、将来に亘って維持していくことを最大限の使命として、具体的には、子どもたちが未来に希望をもって郷土愛を育みながら成長していく、また、高齢者や障害をお持ちの方が安心安全に楽しく暮らしていく、そして、その土台をしっかりと支える現役世代が、地域及び社会の場で活躍し、活力ある地域社会を維持していく、そのような土庄町を町民の皆さんと共に考え、共に創ることを目標に町政運営を行ってきました。

そのために、まずは、まちづくりの方向性として、町の最上位計画である第 7 次土庄町総合計画の策定に取り組み、まちの将来像を「人と自然が輝く・みんなで創るアイラウンドタウン・とのしよう」として、「離島のハンデに負けずに、土庄町の良さを最大限に生かし、自然が美しく輝き、人々が活力と希望に満ちるまちを、行政、民間、住民が一緒になって創り上げていく」との理念を掲げました。続いて、まちづくりの基本方針となる土庄町立地適正化計画や、旧庁舎跡地等の利活用方策についての基本構想など、これからまちづくり施策を進めていくための道筋をつけるべく、中期的な計画策定もしてきました。

こうした計画策定と並行して、この 3 年 8 カ月の間に私が行ってきた主な事業について、土庄町総合計画の 5 つの柱に沿って申し上げたいと存じます。

「地域資源と人で築く産業振興と賑わいのまちづくり」については、観光業界での課題であった 4 つの観光団体を小豆島観光協会として 1 本化しました。その結果、小豆島で初めて、観光の目的を統一した小豆島観光ビジョンの策定が成りました。小豆島観光協会、小豆島町、土庄町が「島は 1 つ」という思いで観光

振興を進めたことにより、コロナ禍で減少した観光客数をコロナ禍以前の 9 割まで回復するとともに、国際認証であるグリーンディスティネーションズのシルバーアワードの受賞にもつながりました。

その他、かどや製油との「ごまのみらいプロジェクト」や、島外への販路開拓を支援する補助金制度、さらには新たなビジネスの立ち上げを支援するローカル 10000 プロジェクトにも取り組んできました。一次産業への支援として、農業については、小豆島オリーブ牛振興事業や戦略產品に対する輸送費補助、新規就農者へのサポート、スマート農業の推進などを進め、水産業に対しても、輸送費補助、漁業組合による漁場保全活動や水産振興への支援を行ってきました。

現在、移住・定住には町を挙げて取り組み、各種補助制度を設けたり、移住セミナーの開催を行ってきました。これにより、令和 5 年度には 192 人で県内 2 位、6 年度には 206 人で県内 3 位の方々を土庄町に迎え入れることができました。さらに、奨学金 U ターン返還免除制度も新たに導入し、年々利用者が増加しております。

また、関係人口及び交流人口の創出のため、大学との連携を進め、これまでの 4 校に加え、せとうち観光専門職短期大学、東京大学先端科学研究所、東京農業大学との連携を結ぶに至りました。学生目線、島の外からの視点で、学生や教員が小豆島の課題解決に向けてさまざまな角度から研究を行っています。

深刻な雇用不足に対しては、島ワークプロジェクトにより 3 年間で 157 名の雇用を創出することができました。

「福祉・医療が充実し、互いを認め合うまちづくり」では、島でお産できる環境とリンクしたうみまちサポートの整備、出産子育て応援給付金、エンゼル祝金、18 歳までの医療費無償化などにより、県内でも充実した子育て支援に取り組んでいます。

高齢者や障害をお持ちの方の支援としては、大部地区での地域おたすけ送迎事業の開始、通院困難者支援事業の利用範囲と助成額の拡大、災害時要支援者登録の推進、土庄町内での障がい者グループホームの建設などを進めております。

「自然と調和し、安心安全なまちづくり」については、災害対策として、ハザードマップの更新、耐震診断、耐震リフォーム補助、家具類転倒防止器具購入費の補助を行うとともに、現在、地域ごとに逃げ道地図の作成を進めており、地域防災力の強化を図っています。

また、役場内にカーボンニュートラル推進チームを発足させ、環境に配慮したまちづくりに取り組むほか、藻場の再生や潮流発電の実装も検討しています。

「豊かな心と体を育み、歴史と文化を大切にするまちづくり」では、大鐸こども園の建て替え、教員不足を補うための町講師の配置などで教育環境の維持と改善に努めるとともに、ふるさと教育や生きる力を伸ばすこととした

STEAM（スチーム）教育の推進に取り組んでいます。

「持続可能な行財政運営の推進」については、町民の利便性と職員の業務負担軽減を図るためにデジタルの活用を進め、すべての課からデジタル課題を持ち寄り、課題を解決するため、デジタルプロジェクトチームを発足させました。

そのほか、ふるさと納税を推進するために、担当課である企画財政課に加え、農林水産課、商工観光課に兼務職員を配置しました。こうした態勢で、便利で使い勝手の良いスマホ町役場の実現を図るとともに、年々着実に増えているふるさと納税を、さらに伸ばしていきたいと思っております。

また、町の財政状況を鑑み、たとえ町長としてやりたいことがあっても、常に財源の捻出と計画的な執行に留意してまいりました。お陰様で基金残高は、就任前の令和3年度末から6年度末までの間に、14億5000万円増加することができました。

以上、私がこれまで取り組んできた主な事業について申し述べましたが、率直に申し上げまして、このうちではっきりと目に見える形になったものは、まだ少ないと思っております。冒頭に申し上げたような就任当時の喫緊の課題に対応するため、私は、町政への信頼回復と行政の透明化が不可欠であるとの思いから、まずは、町長が予定価格や最低制限価格を知り得ない入札制度の構築や、恣意的な施策の進め方によらないための各種計画の策定、さらには、職員が主体的に動きやすい職場環境の整備、互いに競い合い高め合う小豆島町との連携など、町政運営のための基盤づくりからスタートいたしました。

こうした基盤の上に、さまざまな手立てを私なりに全力で講じてきたと自負しておりますが、次のステップとして、これまで取り組んできたものを見えるものとしていくことが求められていると総括しております。

○議長（濱野良一君）

井藤茂信君。

○5番（井藤茂信君）

今お伺いした町長の施策や成果については、一定の評価に値するものと考えております。

しかしながら一方で、本町には依然として多くの課題が残されております。特に厳しい財政状況や人口減少といった町を取り巻く大きな課題を踏まえ、今後の町政をどのような考え方や方針の下で進めていかれるおつもりでしょうか。併せて、住民に対してどのような将来像を示していかれるのかについてもお聞かせください。お願いします。

○議長（濱野良一君）

岡野町長。

○町長（岡野能之君）

井藤議員の2問目の質問にお答えします。

先ほど申し上げましたとおり、この3年8カ月の間に多くの事柄にも取り組んでまいりましたが、まだまだ課題は山積しています。各事業についても、まだ成果を得るに至っていないものや、計画中の事業も多くあります。

しかし私は、決していたずらに焦ることなく、町民の皆さんへの説明に努め、議会のご理解をいただきながら、職員や地域おこし協力隊員ともども一丸となって、着実に町政を進めていくことを、これからも大切にしていきたいと思っております。

土庄町総合計画に掲げる「人と自然が輝く・みんなで創るアイランドタウン・とのしよう」というまちの将来像に向け、行政運営については「持続可能で安心して暮らしていける土庄町」を目指し、町民の皆さんには「安心して子や孫が暮らし続けていける土庄町」をお約束できるよう、その実現に向けて、公助と共に両輪で取り組んでまいります。

○議長（濱野良一君）

井藤茂信君。

○5番（井藤茂信君）

12月には、次期町長選挙が予定されており、住民の間でも関心が高まっています。

現時点における出馬のご意向について、町長のお考えをお伺いいたします。
お願いします。

○議長（濱野良一君）

岡野町長。

○町長（岡野能之君）

井藤議員の3問目の質問にお答えさせていただきます。

本年12月に町長選挙が予定されています。私自身、この3年8カ月で積み残した課題や新たに見えてきた取り組みの必要性を強く感じております。

残りの任期も、私がいただいた町民の皆さんからの負託に全力で応えていくことはもちろん、引き続き町民の皆さんからの負託をいただけるのであれば、土庄町の課題解決と将来像の実現のため、粉骨碎身、私の全身全霊をもって取り組んでいきたいと決意しております。2期目に向けて出馬する意思を固めています。

○議長（濱野良一君）

井藤茂信君。

○5番（井藤茂信君）

ただいま、町長のご出馬についてご意思を受け承りました。

町長もおっしゃいましたとおり、本町には依然として多くの課題や懸案が山積みしております。

社会が著しく変動する中にあって、今、土庄町にとっては極めて重要な時期であり、行政には停滞することなく着実に施策を進めていく、継続性が求められていると考えております。

私も一議員として、執行部との適切な関係を保ちながら、土庄町の将来のために、ともに全力を尽くしてまいりたいと存じます。

以上で質問を終わります。